

月刊



湖国が滋る・水と緑の街づくり

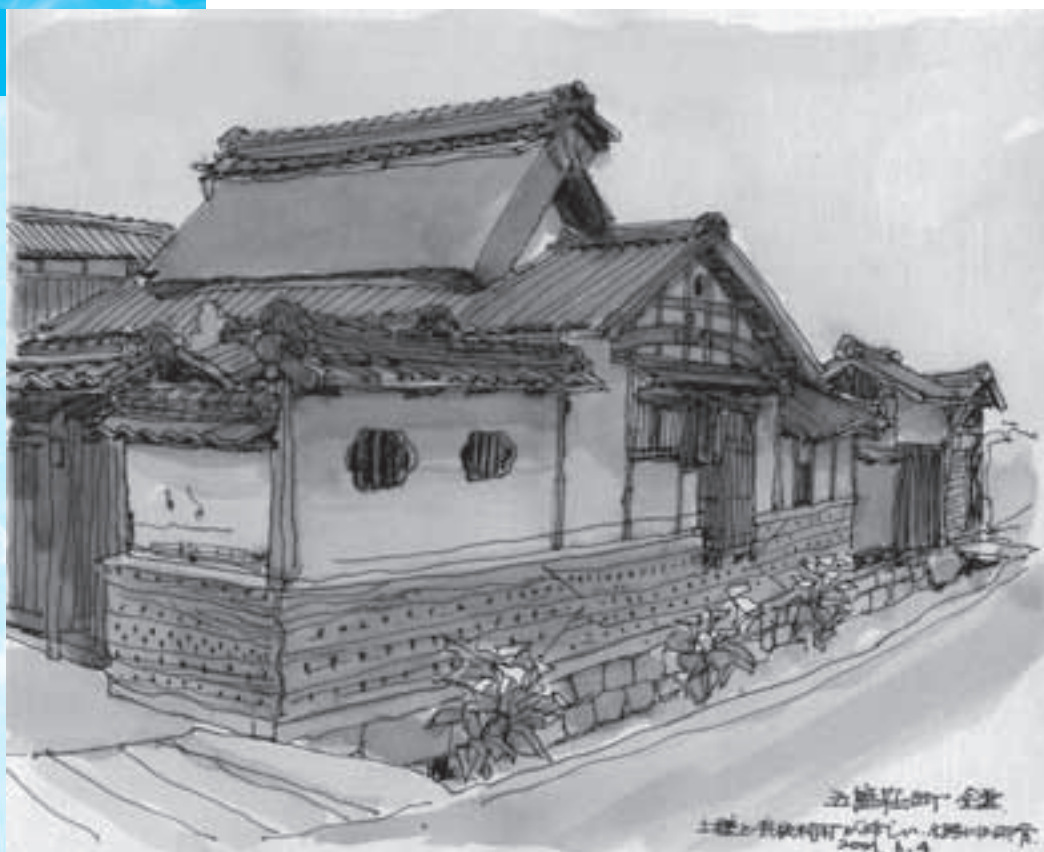
平成25年1月1日発行 通巻204号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行/公益社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

公益社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

CONTENTS

- ・ 新年のあいさつ 2
- ・ 青年委員会 あーき塾2013 2011年
イグ・ノーベル賞受賞者 今井 眞氏
『わさび臭気発生装置付 住宅用
火災警報器 講演会』..... 3
- ・ 機関誌「家」特別委員会
フォトコン作品募集 4
- ・ 機関誌「家」特別委員会
機関誌「家」2013号「会員の声」
原稿募集
- ・ 女性委員会 DoシリーズNo.63
「自然エネルギーによるまちづくり」
見学研修旅行開催案内 5
- ・ 青年委員会 第20回 近畿アーキテクト
2013 地域実践活動発表会 6
- ・ 総務企画委員会 第32回 近畿建築祭
「奈良大会」参加報告
- ・ 大津地区委員会・湖南地区委員会
近江の街道でつながる琵琶湖の風景
『旧東海道・中山道景観ラリー』報告 7
- ・ 地区だより..... 8
湖東地区
- ・ 1月の暦
- ・ 足のむくま 近江再発見 第4回



舟板壁の家（東近江市五個荘）

五個荘（金堂地区）は、「金堂の町並みは古代条里制地割を基礎に大和郡山藩の陣屋と社寺を中心に形成された湖東平野を代表する農村集落で、加えて近江商人が築いた意匠の優れた和風建造群の歴史的景観を保存し、わが国として価値が高い」として1998年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。近江商人たちは、郷里を離れることなく、金堂の本宅を守り、進んで社寺や公共のために出資しました。、彼らが育んだ屋敷の白壁、蔵の舟板張りの町並みは、現在にもなお受け継がれています。

（東近江市観光協会の「五個荘」ホームページより抜粋）

新年のあいさつ

公益社団法人 滋賀県建築士会 会長

山本 勝義



新年を迎え、皆様にはお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。

旧年中は、本会に格別のご支援、ご協力を賜り、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、設立60周年の筋目の年を迎え、それに併せて平成24年4月1日より「公益社団法人」として新たなスタートを切ることができました。

「新定款」による本会の目的は、

「本会は、建築士の品位の向上及びその業務の進歩改善に資するため、建築技術に関する研修並びに指導及び連絡に関する事務を行い、もっと、建築文化の進展に寄与し、広く社会に貢献することを目的とする」とあります。

滋賀県建築士会は、1951年（昭和26年）11月10日に会員数287名にて設立され、以来、歴代の会長、役員、諸先輩をはじめとする会員の皆様のこれまでのたゆまぬご尽力、ご努力により、建築士としての崇高な目的を達成するために、各方面での活発な活動を続けてこられました。60周年の筋目の年に「公益社団法人」として、新しい一步を踏み出せた事に、ここに改めて、先輩諸兄に敬意をあらわし、感謝の気持でいっぱいであります。

これから先の10年、20年後の建築士会のあるべき姿は、今我々の肩にかかっていると考えます。

将来を見据えて、間違いのない舵取りをして行かねばと、年の初めに改めて、胆に命じるしだいあります。

衆議院総選挙も終り、新しい政治の枠組みができました。

乱立する政党に困惑致しましたが、選挙が終われば「ノーサイド」、我々国民の為に汗を流し、知恵を出して、全員で国家経営に邁進して頂きたいと思います。

それには、「対立しつつ調和する」そんな心構えが必要ではないでしょうか。

月と太陽、山と川、男と女……これらはすべて対立していると考えられる。

しかし、ただ対立しているだけではない。対立しながらも、お互いに調和し合って、この大自然は成長発展し、秩序を保っている。したがって、対立と調和は一つの自然の理法で、社会のあるべき姿なのかもしれない。対立だけでは、混乱が生じる。調和だけでは発展はない。

対立しつつ調和するところに、初めて、それぞれの個性、特質が活きて成長発展が生まれるのではないのでしょうか？

物事を決め、前へ進める政治を期待したいものであります。

本年は、「へび」年

「竜頭蛇尾」にならない様、切に願っております。

本年もなお一層のご理解、ご支援をお願い申し上げ、新年のごあいさつと致します。



青年委員会では、今年度3回目となりますあーき塾を開催します。今回は、滋賀医科大学の今井 眞 先生をお迎えし、『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器 講演会』を行います。

今井先生は、2011年度『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器』の開発により、「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に対して与えられる『イグ・ノーベル賞（化学賞）』を受賞されています。『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器』は、もともとは聴覚障害者や耳の遠い老人向けに危険を察知させるべく「嗅覚に働きかける」というコンセプトから開発されたシステムで、既に実用化もされています。火災等による煙を感知すると装置が作動し、「わさび臭」を噴出させ、その刺激により目を覚ますとのことで、数ある匂いから「わさび」を選びとったところがイグ・ノーベル賞授賞のポイントであったそうです。そんな柔軟な発想や、開発に関する思いをお話して頂く予定です。

また、大津市消防局のご協力を頂き、講演前に住宅用火災警報器の設置義務やその必要性・維持管理等についてのご説明を頂きます。住宅を手掛けられた方なら誰でも一度は耳にしたことのある「住宅用火災警報器」について今一度その必要性を再確認し、建築士として住宅火災被害の減少に努める為の一助になりたいと思っております。

建築士会の会員だけでなく、どなたでも無料でご参加頂けますので、ご近所お誘い合わせのうえ、沢山の方々のご参加をお待ちしております。



ロンドン科学博物館の展示



講師プロフィール

今井 眞 (いまい まこと)

1962年（昭和37年）生まれ。浜松医科大学医学部卒。

1989年（平成元年）医師免許取得。現在は、滋賀医科大学精神医学講座・講師として活躍。2011年（平成23年）に「イグ・ノーベル賞（化学賞）」を受賞、同年「ナイスステップな研究者（文部科学省科学技術政策研究所）」にも選定されておられる。兵庫県伊丹市出身。現在は、草津市に在住。

【開催日時】 平成25年2月13日(水) 18:30受付開始 19:00開始 21:00終了（予定）

【場 所】 大津市ふれあいプラザ 大会議室
滋賀県大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津5階

【参加費】 無料

【定 員】 50名（申し込み先着順）

【CPD単位】 2単位（予定）

【申込方法】 下記申込用紙に必要事項をご記入頂き、滋賀県建築士会 事務局へFAXをお願いします。
※前日までに受付確認及び会場までの交通・駐車場等のご案内をさせていただきますので、
FAXまたはメールアドレスを必ずご記入下さいますようお願いいたします。

【申込締切】 平成25年2月10日(日)

あーき塾2013 2011年イグ・ノーベル賞受賞者 今井 眞氏 講演会 参加申込用紙

会員/会員外	お 名 前	当日連絡先（携帯TEL）	FAXまたはメールアドレス
会 員 ・ 会員外			
会 員 ・ 会員外			

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 <FAX.077-523-1602> (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

フォトコン作品募集

(公社) 滋賀県建築士会では、フォトコンテストを開催いたします。

会員のみなさまの自慢の作品をお待ちしております。

作品のテーマ 「フリー」(風景・建物などテーマは問いません)
「祭り」

応募資格 特に制限は致しません。但し、作品は自作に限ります。

応募作品 4つ切(カラー・モノクロ)、ワイドタイプ可、作品は未発表のものに限ります。
また撮影時期、応募点数は問いません。
(今回に限り、電子データによる応募も受け付けます。ただし、その場合は印刷等すべてお任せとなります。応募点数は1点のみです。)

表彰 *大賞賞金1万円 *入選賞金5千円

募集期間 平成24年11月～12月

審査 イオンモール草津にて展示し、一般の人の投票によります。

発表 平成25年5月ごろに、機関誌「家」及び滋賀県建築士会ホームページにて発表
(<http://www.kentikushikai.jp/>)

応募方法 11月号の応募票に必要事項をご記入していただき、作品の裏面に糊付けの上、(公社) 滋賀県建築士会事務局までご持参いただくか、郵送にてお送りください。(必要事項を記入したメールによる応募も受け付けます。)

送り先 〒520-0801 大津市におの浜1-1-18 建設会館3階
(公社) 滋賀県建築士会「フォトコン係」 TEL. 077-522-1615

応募細則

1. 入選作品の著作権は、主催者に帰属します。選外作品であっても使用することがあります。肖像権などについては、応募者の責任に於いて了解が得られているものとします。
2. 応募作品は返却いたしません。ただし、返却希望者は郵便切手(500円分)を同封頂ければ返却いたします。
3. 応募票に記載された個人情報、当コンテスト以外には使用いたしません。
4. 応募は会員・一般とさせていただきます。

主催団体 公益社団法人滋賀県建築士会



2012年大賞
「日のあたる場所」

機関誌「家」2013号「会員の声」原稿募集

機関誌「家」2013年号に掲載します『会員の声』の原稿を募集いたします。

日常業務や社会のこと、趣味や家族など内容は問いません。写真・資料等を含む1600字程度で原稿をお寄せください。

詳しくは、(公社) 滋賀県建築士会事務局までお問い合わせください。

講演を聞くだけじゃわからない…

行って・見て・触れて・その場で話を聞いてみませんか

9月12日「自然エネルギーによるまちづくり」をテーマに、高知県梼原前町長 中越武義氏による講演会が（公社）滋賀県建築士会によって開催されました。

会員・非会員問わず大勢の方が参加され、感銘を受けられた方も多いと思います。

女性委員会では、雲の上の町 高知県梼原町へ見学研修旅行を企画しました。

もちろん 中越前町長による案内付です。

私たちの身近な資源（水・風・光・木）を利用したまちづくりを、体験学習してみませんか？

■ 見学地

- ・わずか6mの川の落差を利用した「小水力発電」、太陽光発電、風力発電
- ・地熱を利用した「雲の上プール」
- ・隈研吾設計「梼原総合庁舎」「雲の上ギャラリー」「まちのえき『ゆすはら』」

日 程：平成25年3月2日(土)～3日(日)

行 き 先：高知県梼原町

募集人員：25名（会員・会員外・男女問わず）

参 加 費：会員：28,000円 会員外：38,000円

参加人数により、参加費が多少増減する場合があります。

シングルご希望の方は別途必要になります。

部屋数に限りがありますのでご希望に添えない場合もあります。

その場合は、別途ご案内いたします

申し込み：下記の申込用紙に必要事項記入の上、建築士会事務局へ
FAX（077-523-1602）をお願いします。

締め切り：平成25年1月20日

※参加者には、後日FAX又はメールにて詳細をお知らせします。



■ スケジュール（予定）

3月2日 大津駅前6：40集合 大津出発（6：45）——（バス移動・途中昼食）——梼原着（14：30）——梼原総合庁舎研修（中越前町長の講演、庁舎見学）——ホテル「マルシェ・ユスハラ」チェックイン（18：30）——夕食「雲の上レストラン」——ホテル帰着

3月3日 ホテル発（8：30）——（バス移動）——雲の上ギャラリー見学・小水力発電・バイオマス事業——（昼食）——（バス移動）——大津着（19：30）

女性部会 DoシリーズNo.63 「自然エネルギーによるまちづくり」見学研修旅行 H25.3.2～3（土・日）

フリガナ お名前	住 所	連絡先（PCのE-mailのある方は、必ず 記入をお願いします）	会員 会員外	宿泊部屋の希望
		当日の連絡用電話		シングル
		FAX又はE-mail		ツイン又はトリプル
		当日の連絡用電話		シングル
		FAX又はE-mail		ツイン又はトリプル

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局〈FAX.077-523-1602〉（お問い合わせは… TEL.077-522-1615）

第20回地域実践活動発表会近畿あーきてくと2013 今年度のテーマ 地域力 ～創造するコミュニティー～

平成6年度より開催しております地域実績活動発表会も今回で20回目という記念の回を迎えようとしています。

本年度は「地域力」をテーマに、近畿2府4県での様々な地域実績活動をご紹介しますと共に、京都大学の門内輝行氏にご講演頂きます。地域や人に建築・建築士が出来る事は何か…一緒に考えてみませんか。発表会後には講師・発表者の方々と交流パーティも開催致します。

- 【日 時】平成25年2月9日(土) 13:00～17:30 (12:30開場)
 【会 場】大阪府健保会館 大阪府中央区和泉町2-1-11
 【参加費】500円(資料代)～学生無料～
 【C P D】5単位
 【講演】門内輝行氏(京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授)
 【交流パーティ】18:00～20:00(参加費5,000円)(学生3,000円)
 【申込締切】平成25年1月10日(木)



公益社団法人滋賀県建築士会青年委員会 野邑委員の発表！

滋賀県 栗東市街道百年ファンクラブ

歴史街道と山村集落の一体的再生～その後～

第20回 地域実践活動発表会 近畿アーキテクト参加申込書 H25.2.9(土)

会員／会員外	お 名 前	連絡先TEL (当日連絡用)	交流パーティー
会 員・会員外			参加・不参加
会 員・会員外			参加・不参加
会 員・会員外			参加・不参加

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 <FAX.077-523-1602> (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

第32回 近畿建築祭「奈良大会」参加報告

12月1日(土)平成24年度近畿建築祭が奈良県で開催されました。

滋賀士会からは本会より19名、青年委員会4名を含め総勢23名での参加となりました。

【第1部 講演会・式典】

午前10時30分より式典が執り行われ奈良県建築士会福本会長の挨拶に続き、大会旗が大阪府建築士会岡本会長に引継がれました。

11時50分から引き続き講演会が行われました。講演は桜井市纏向学研究所センター所長による『王権誕生-日本国家の起源を探る』講演が行われました。

古事記編纂1300年の節目にあたり日本人のルーツを探る興味深いお話でした。

【第2部 昼食・エキスカーション】

昼食終了後、13時00分よりエキスカーションが5コースに別れ開始され、滋賀士会も各コースに参加し晩秋の奈良を堪能してまいりました。



大会会場、見学会で撮影

近江の街道でつながる琵琶湖の風景 『旧東海道・中山道景観ラリー』報告

11月24日(土)、大津地区委員会・湖南地区委員会主催で近江の街道でつながる琵琶湖の風景～旧東海道・中山道景観ラリー～を開催しました。

昨年行いました『急がばまわれ瀬田の唐橋』では草津宿を出発し途中で唐橋経由の徒歩班と船班に分かれ大津宿本陣跡を目指しながら歴史・景観を考えるという事業でした。

本年度については『急がばまわれ瀬田の唐橋』を継承しつつ、一般の方も含め多くの人に歴史・景観を考えて頂き、かつ楽しんでもらえる事業は何か模索していたところ「くさつ景観フォーラム」が開催されるという事を聞きつけ、フォーラムと連携する形で一般の方も含めた『旧東海道・中山道景観ラリー』開催することとなりました。

当日、東海道チームと中山道チームにそれぞれ分かれて出発し草津本陣を目指しました。

東海道チームは大津本陣跡をAM9:00に出発し、唐橋付近にある旧瀬田代官屋敷で昼食休憩をとり、PM2:30頃草津本陣に到着しました。道中の関所（和田神社→旧瀬田代官屋敷→弁天池→草津本陣）では昔の役人に仮装したクイズ出題者からの難問と戦いながらも楽しく歴史を感じることが出来ました。

中山道チームについても『守山宿うの家』を出発し 道中の関所（守山宿うの家→大宝神社→伊砂砂神社→草津本陣）では同様のクイズを堪能し歴史を楽しみながら草津本陣に到着しました。両チーム共に到着後、草津本陣にて記念撮影を行いました。東海道チームは約14kmの長旅で足腰が疲れている方も多く見られましたが、皆さん笑顔での撮影会となりました。

その後、草津アミカホールで大津市長、草津市長をはじめ多くの方に出迎えて頂き『くさつ景観フォーラム』に合流し、それぞれの旧街道についてスライドを使用しながら報告をさせていただきました。

実際に歩いてみると石碑や趣のある家屋など歴史的な風景が点在しており、建築士としてもこの歴史ある旧街道の景観にもっと関心を持ち、どのようにしていくのかを住民と共に考え、そして提案していければと感じました。

最後に総勢60名程となりました本事業ですが、一般参加者が12名で予想より少なかったことが残念であり、広報活動についても反省点となりました。

参加して頂いた皆様、ご協力および応援して頂いた皆様どうもありがとうございました。



湖東地区

「平成24年度 湖東地域会一泊研修」のお知らせ（東日本大震災復興支援）

2011年3月11日 午後2時46分 宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。15mを超える津波により「町」が消滅するという想像を絶する災害となりました。

公益社団法人 滋賀県建築士会では、被災地に対し「建築士」として何が出来るのかを知るため山本会長以下5名の有志が現地へ赴き、又 本年度 通常総会では現地視察時にお世話を頂いた「宮城県建築士会理事 安部 正氏」に来県頂き、基調講演をしていただきました。

氏の言葉に「3.11を忘れないで欲しい、東北に訪れ地域経済の活性化に少しでも寄与して欲しい」というのがありました。

滋賀県建築士会湖東地域会では、2年に一度「伝統的建造物群保存地区」の見学を中心に「一泊研修」を実施しておりますが、本年度は 東日本大震災復興支援と銘打って、東北方面の研修を企画しました。日程概要は下記の通りです。

日 時：平成25年2月23日(土)～24日(日)

日 程：2月23日 (JR近江八幡駅 5:26発乗車→新大阪) 伊丹空港→仙台空港→平泉「中尊寺」→仙台市内
2月24日 南三陸町→石巻→松島→仙台空港→伊丹空港

参 加 費：湖東地域会会員 ￥55,000-

湖東地域会会員外 ￥65,000-

申込締切：平成25年1月15日(火)

この機会にと思いいの方は、滋賀県建築士会湖東地域会 矢場 までご連絡下さい。

連絡先 FAX:0748-46-3534 TEL:090-7359-5770

1月の暦

1 火 赤口 元旦	12 土 赤口	23 水 大安 四役会・理事会
2 水 先勝	13 日 先勝	24 木 赤口
3 木 友引	14 月 友引 成人の日	25 金 先勝
4 金 先負	15 火 先負	26 土 友引
5 土 仏滅	16 水 仏滅 まちづくり委員会	27 日 先負
6 日 大安	17 木 大安	28 月 仏滅
7 月 赤口	18 金 赤口	29 火 大安
8 火 先勝	19 土 先勝	30 水 赤口 子ども立体作品展 審査会
9 水 友引	20 日 友引	31 木 先勝
10 木 先負 県産連年賀会	21 月 先負	
11 金 仏滅 建築関係5団体合同年賀会	22 火 仏滅	

足のむくまま
近江再発見

近江商人(五個荘商人) 中江勝次郎

明治38年(1905)、朝鮮大邱に三中井呉服店を創業し、昭和9年(1934)に株式会社三中井百貨店となる。戦前まで、本宅を金堂に置き、朝鮮半島・中国で約20店舗を経営した。1905年に大韓帝国に渡り、大邱の西門市場付近に久次郎(西村)・富士郎・準五郎の兄弟4人で三中井商店を設立し、朝鮮・満州地区に18店舗を持つ百貨店チェーンを一代で創り上げた。当時の店舗はテナント方式を採用せず、全フロアを自社で経営していた。1924年に、勝次郎はアメリカ合衆国を視察した。北米の各地を巡り、人々の豊かな生活や近代的高層ビル、街を走る自動車などの近代都市の光景に感動し、シアーズ・ローバック(現・シアーズ)などの大手百貨店に関心を持った。京城府に戻った勝次郎は、その販売手法を参考に経営を改革し、1933年に三中井百貨店と改称した。日本にも店舗を持ち、一時期は当時最大であった三越の売上を超えていた。1945年の太平洋戦争終戦で対外資産の全てを失い、三中井百貨店は消滅した。勝次郎亡き後、家族は五個荘へ戻り、昭和24年に煎餅店を開店した。その後取り扱い品目を洋菓子に変更して昭和30年代初頭に滋賀県彦根市本町にて三中井洋菓子店(のちに「三中井」に改称)を開店。同店は現在も、1999年に同地に完成した夢京橋キャッスルロード内の店舗の1つとして営業し、三中井百貨店のシンボルマークである井桁菱を受け継いでいる。勝次郎の生家は五個荘金堂町に現存し、近江商人屋敷中江準五郎邸として一般公開されている。

(五個荘町 - Wikipediaより 抜粋)



中江準五郎邸